

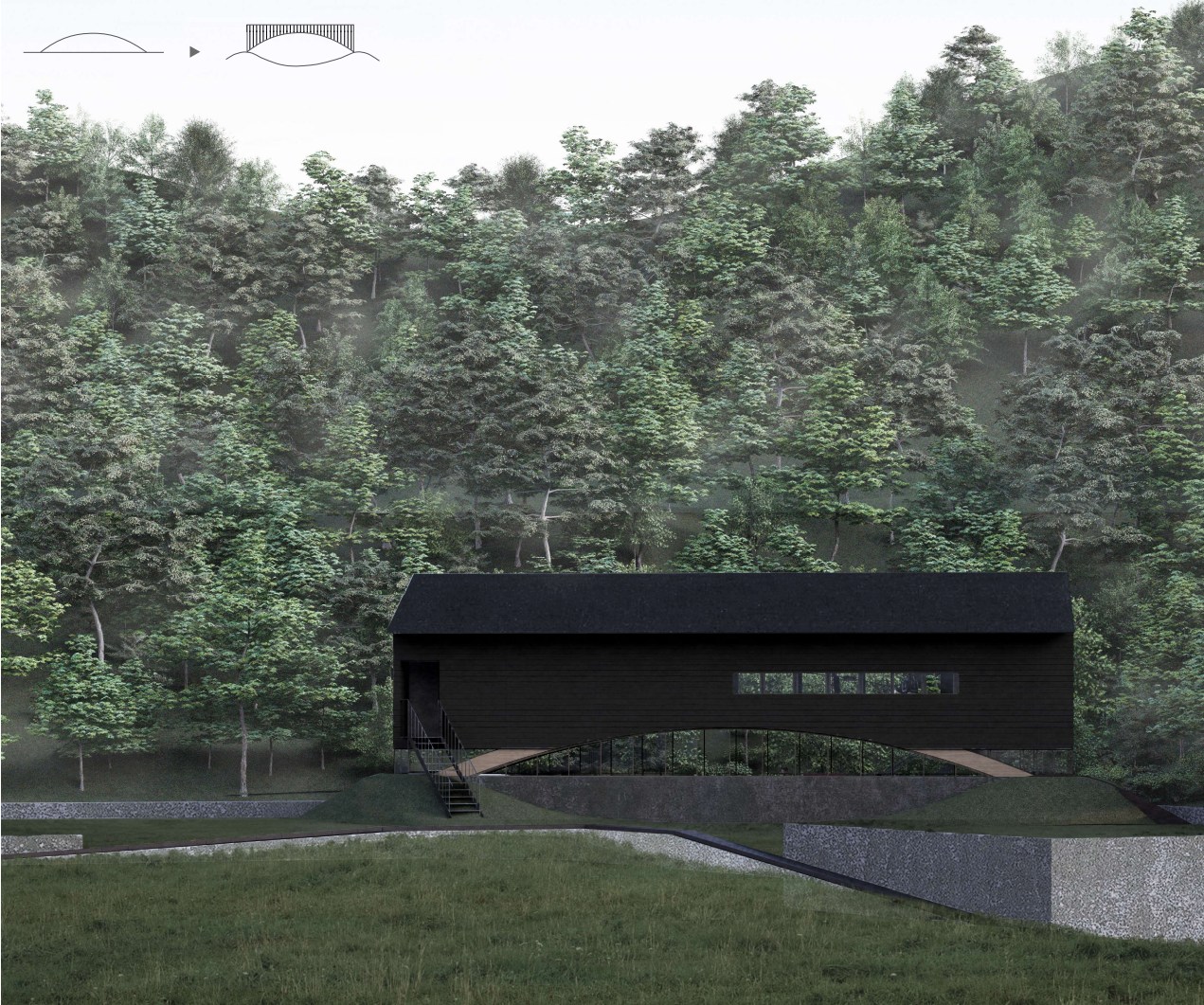
橋に棲む

私たちは重力から自由になる空間と聞いて、「橋」を思い浮かべました。「橋」は重力に対して必死に抗う構造物であると同時に、隔たれた場所を繋ぐ通路であり、人々を重力から解放する空間であるとも言えます。

しかし、心と歩道橋の上で立ち止まって眼下を行きかう車を眺めたり、河川敷の橋の下で寝ころびながら映画を鑑賞したりするように、「橋」は単なる通路以上に豊かな体験を私たちの日常にもたらしてくれる存在でもあります。

そこで、私たちは物理的にはつながっている敷地に対して、あえて必要のない「橋」をかけることを考えました。「橋」が本来持つ通路としての意味を剥ぎ取ることで、人が暮らす場へと変換していきます。

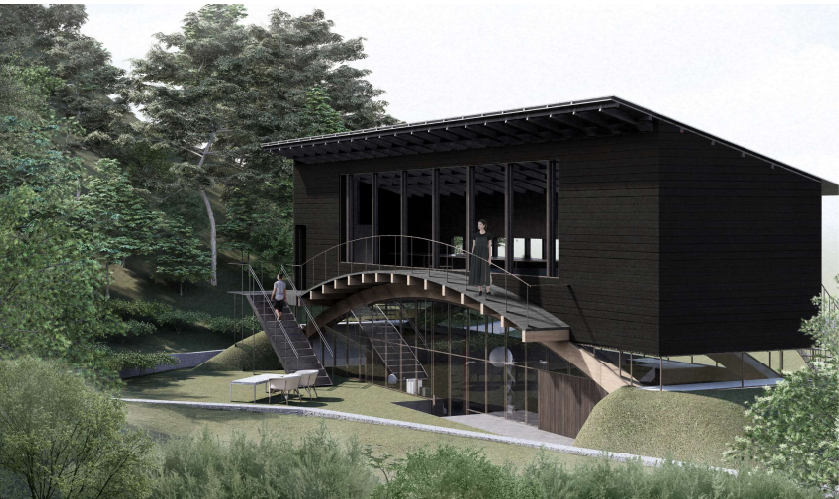
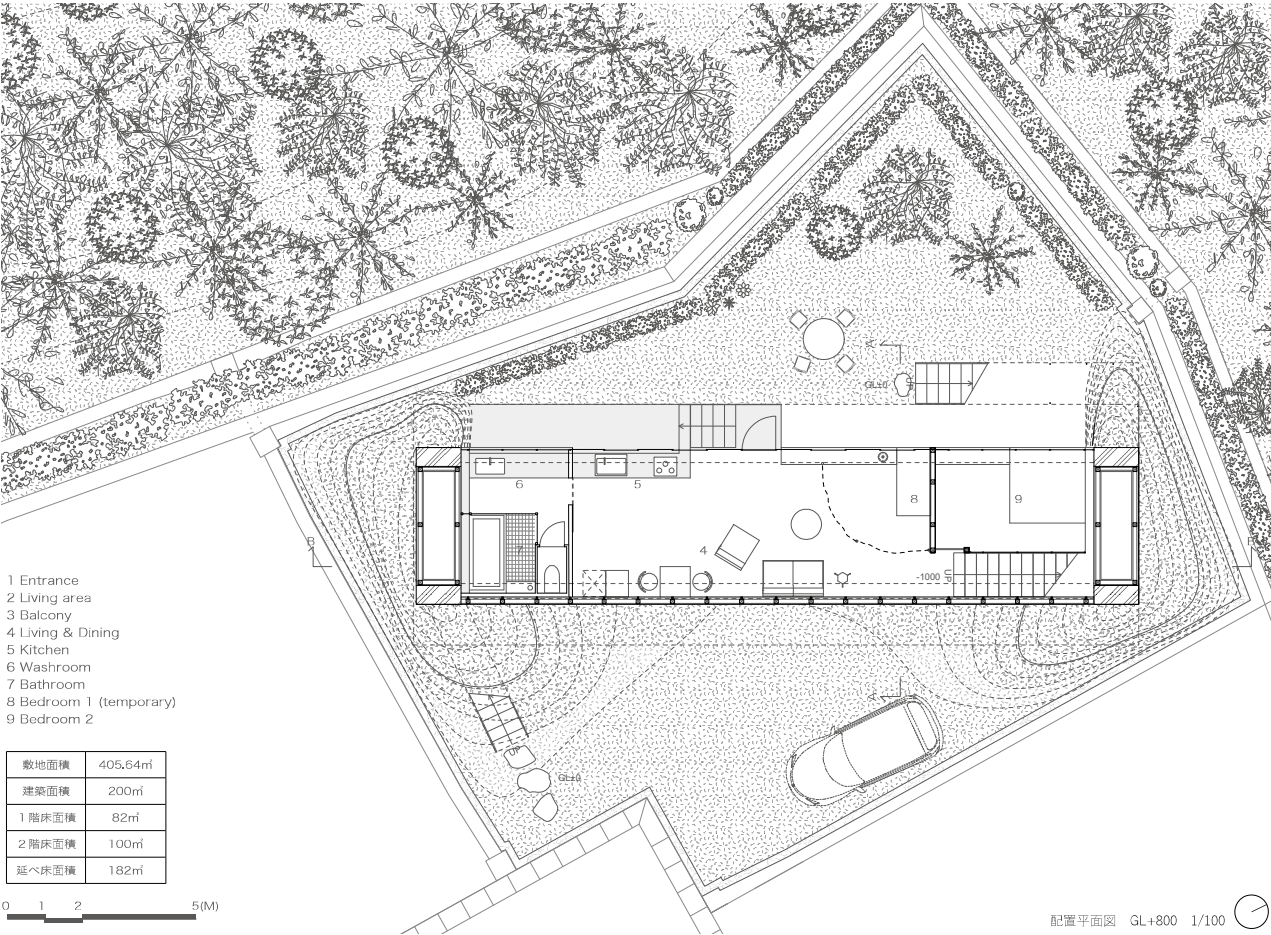
重力から解放された一本の橋が、多様な居場所を内包する豊かな住空間を実現します。



正面外観：敷地に橋をかける。アーチによって住宅のボリュームが浮かびあがる。

Program
瀬戸内海や直島にほど近い敷地条件から、2~4人家族の週末住宅を想定した計画としました。リモートワークなどの普及した今日は、住宅内部に求められる居場所が多様化しています。そこで、家の中で各々が自由に空間を選び取ることのできる2拠点生活の新たなモデルとなるような住宅を考えました。

Layout
本計画では敷地に一本の橋を配置することで、その上と下、手前と奥の空間を作り出します。前面道路に対して軸を振った配置とし、接道する前庭と、山側に開いたプライベートな裏庭を計画します。橋の上下は居住空間となり、一部が緑地として裏庭と一体的に機能します。山側に向かって大開口を取ることで、玉野の自然を生活へと取り込みます。



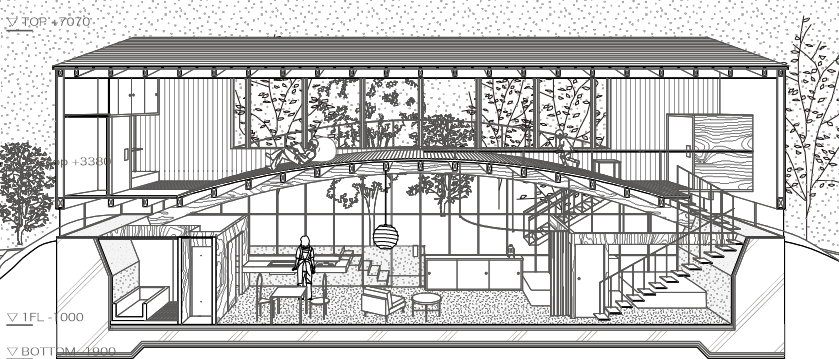
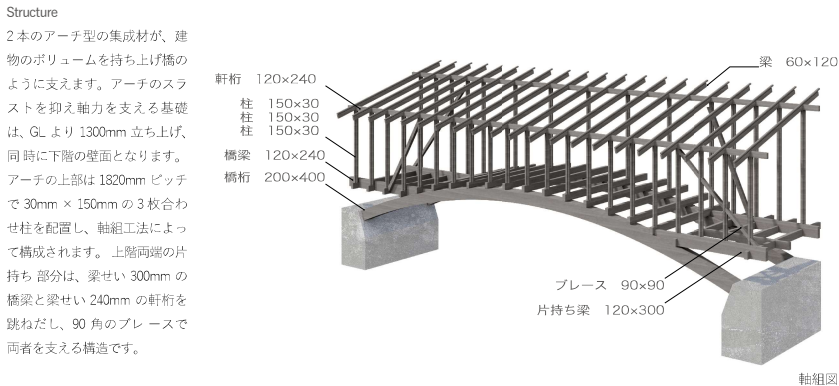
裏庭側外観：橋が作り出すひとつながりの曲面上では各々が居場所を見出し、自由な活動が展開される。



上階内観：山側に向かって大きな開口部を設けることで、自然の景色と中庭を生活の中に取り込む。



下階内観：橋に覆われた下階では、空間が緩やかに分節され、プライベートな居住空間として機能する。



Section
断面的には橋の作るアーチが上階の床面、下階の天井面となり、連続しながらも場所によって高さが変化する内部空間を作り出します。上階と下階は、ちょうど橋の上と下のようにそれぞれが異なる空間性を持ち合わせます。上階は曲面の床が作り出す大きなリビングとして、半地下の下階はよりプライベートな空間として機能し、住む人が気分に合わせて居場所を選び取ることができます。さらに、山の斜面と呼応する片流れ屋根をかけ、山側に開口を大きく取ります。屋内と中庭、さらにその背後にある森までがつながっていく計画です。